

2012.11.15 No.84

第18回中山義秀文学賞公開選考会

◁昨年の選考会の様子



受賞作品決定の瞬間に立ち会う

今年の「中山義秀文学賞」を決める選考会が、12月15日、文化センターで開催されます。

選考は、文学賞としては全国で唯一、公開選考方式で行われ、来場者が見守る中、最終選考に残った3作品の中から、4人の選考委員の論評により受賞作品が決定されます。

目の前で繰り広げられる選考の様子を、そして受賞作品決定の瞬間を、ぜひ会場でご覧ください。

- 日時 12月15日(土)午後1時から
- 会場 文化センター (中田)
- 入場料 無料
- 選考委員

作家の津本陽さん、竹田真砂子さん、安部龍太郎さん、文芸評論家の縄田一男さん

◁中山義秀文学賞▷

中山義秀文学賞は、平成5年4月に大信地域(旧大信村)に建設された「中山義秀記念文学館」の開館を記念して創設されました。

前年の4月1日から3月31日までに刊行された書籍が対象で、日本の歴史を素材とした文学作品(歴史・時代小説)の中から、選考委員により最も優れた作品が選ばれます。

これまで受賞した作品には、平成21年の大河ドラマの原作となった、火坂雅志さんの「天地人」(NHK出版、平成19年度受賞)などがあります。

最終選考の3作品を紹介します

春告げ坂 小石川診療記
安住洋子 著(新潮社刊)



小石川養生所に勤める若き医師・高橋淳之祐のもとには、貧しい患者たちが運び込まれてくる。思うに任せぬ養生所で、おのれの持てる医術を尽くし、仲間たちとともに奮闘する淳之祐。

坂の上の養生所を舞台に、凜と爽やかな青年医師が江戸を駆ける。

黒南風の海 加藤清正「文禄・慶長の役」異聞
伊東 潤 著(PHP研究所)



文禄、慶長と二度に渡って行われた、豊臣秀吉の朝鮮出兵。それは、日本と朝鮮両国にとって無益な戦いそのものであった。

日本軍が破竹の進撃を続けるなか、嘉兵衛、金宦、そして加藤清正…、戦う男たちの間に何があったのか?

涅槃の雪
西條奈加 著(光文社刊)



新任の北町奉行・遠山景元の信頼も厚い高安門佑は、ある事件をきっかけに、お卯乃という元女郎を屋敷に引き取るようになった。その矢先、天保の改革が発布された。お上の苛烈な締め付けに立ち向かう気骨ある与力の姿を通じて、市井の人々の意地と気概を描き上げる。

中山義秀顕彰会事務局 ☎ 3614